

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300151		
法人名	医療法人 岩下会		
事業所名	岩下病院 グループホーム あじさい		
所在地	群馬県桐生市宮本町四丁目320番地		
自己評価作成日	平成25年7月17日(水)	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成25年8月8日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院であり入居者様の健康管理を安心して適切な医療が受けられるように支援しています
昔からの行事などを大切に、参加したり楽しんだりしています。
また、三食手作りをモットーにして、食前、食後など共同で出来る事に参加して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は清潔で嫌な臭いはしない。昼食の調理の美味しそうな香りが漂ってくる。利用者はワクワクし利用者同士の会話が弾む。献立は毎回利用者がホワイトボードに書き入れ、読み上げられる。利用者の身なりも季節や寒暖に応じた適切な服装で好みや希望が優先され、きれいに整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々必ず目にする記録の表紙に理念を揚げ初心を忘れぬよう共有している	職員の入れ替わりもなく理念は共有されている。職員会議で理念をそろそろ変えてみてはどうかという意見も出ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関先での日光浴や併設病院外来者と語らいがある また、花木の水やり時などに住民の方に声を掛けて頂いている	地域の病院通院者が顔なじみの利用者に声を掛けてくれる。馴染みの桐生祭りに参加したり、地域の子ども神輿と連携を図る等で地域とのつながりを大事に地域情報を得るよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者、家族、見学者様からの相談などに経験から得た、支援の方法を可能な限り伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	やや2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用者近況報告やその都度テーマを揚げた会議を実施し意見を頂いている	定期的に開催され、利用者・家族・地域関係者・市関係者が参加し、その時期のトピックスや事業所の状況や活動報告を行い、意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所へ書類を提出に行った際など、話しをさせて頂いている 解らないことは電話で質問させて頂くこともある	管理者とケアマネジャーが介護保険更新代行や日常的な報告等に出向いている。地域包括支援センターと合同で「認知症家族交流会」が開催された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体病院の救急出入口と玄関通路が共有の為、玄関の施錠はしているが、日々変わる身体抱束の具体的行為は職員へ会議などを通じ周知させている	玄関は天気の良い日にはお掃除の時間を兼ねて開けているが、ふらっと出かける利用者や玄関位置の関係で施錠している。居室の窓はストッパーのついている部屋もあるが入居者の状態により開けている。身体拘束については、ケア会議での話し合いや施設内研修を行っている。	玄関の施錠は身体拘束に含まれるという考え方に添って開ける時間の工夫を続けてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などを通じて虐待の無いよう防止に努めているが、利用者の会話の中や無言のサインなどを見逃さないよう心掛けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかな概要は解っているが、細かな権利などは理解できているとは言い難い 研修などを活用し職員全体で理解していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要書類などは、読み上げて説明を行い、疑問点は随時対応を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話や面接時、電話対応時など、意見を聞かせて頂いたり、また、表情などからも感じとれるようにしている	意見箱には入らないが、アンケートを実施したり、担当制をとり本人から聞いている。家族からは面会時や電話等で聞き取り、申送りノートで共有しケアマネジャーに繋げ運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や職員会議などで、意見や提案を聞いている	全員参加の職員会議で意見交換がされている。職員から主任、主任から管理者へと意見や提案があがり、運営者に報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に来所し、職員の生の声を聞く時間を設けている 代表者会議などでも、まとめた意見を伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支援センター主催の研修や病院での研修、事業者主催の研修に参加する 総会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支援センター主催の研修や他事業所ケアマネジャー来所時などに交流を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の性格などを踏まえ、安心出来る環境で話を聞けるようにしている また、本人について、ご家族に入居前までの情報は出来る限り多く収集する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時から利用の開始まで、都度未設、電話にて家族の話に耳を傾けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の望むサービスを行いながらも、より良い支援が出来る様なら、都度本人や家族に提案を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の心を忘れないようにしながらも、より自然な家族に近づけるような、お互いに冗談を言い合えるような雰囲気作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や事業所の「あじさいのひととき」での通信文などで、本人の状況を共有しながら、お互いの意見を出し合えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族から申し出の無い限り、面会や電話などの制限は設けずに、関係が途切れないようにしている	馴染みの知人や地域の顔見知りの方々に話しかけてもらえるようにしている。また、個別に昔の生活様式を聞き、沿えるようにしている。席順に気を配り利用者同士の関係性を大切にしている。お皿拭きや掃き掃除等の家事を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを把握し、手作業や会話などを通じて関わり合えるよう働きかけるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先を訪問したり、家族と電話連絡などを行いフォロー出来るように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動などの中にある希望や意向を見逃さないようにしている 家族の意見も参考にさせてもらう	職員が担当制になっており、利用者から希望の聞き取りや日常の会話の中から意向を把握し、ケアマネージャーに伝えている。口腔体操やリハビリ体操、ボディシャンプーの持ち込み等の希望を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族からの情報や、必要に応じ以前いた施設と連絡を取り、本人の馴染める環境をつくっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	極力、就寝時間、起床など本人の行動に制限は行わず、その中から現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケアマネージャーと職員でモニタリングを行い、その際、本人や家族から希望や意向があれば、介護計画に盛り込んでもらう	ケアマネージャーは担当職員の申し送りノートを確認し、月1回のモニタリングを基に3ヶ月毎にケアプランの見直しをしている。また、状態変化の際は随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録とは別に職員の感じた個人個人の違和感などを書けるようノートを用意し共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が急に体調不良になった時や本人から買い物など外出の希望があった際は、家族に変わり支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や市役所のボランティア事業への参加を通じて、本人が楽しめるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列病院の定期的な往診の他に馴染みのかかりつけ医のある方は、家族の協力も得ながら、受診の支援をしている	入居時にかかりつけ医を継続するか協力医に変更するか選択できる旨を説明している。訪問歯科は希望により定期と必要時に支援がある。かかりつけ医の受診は基本的には家族支援だが、家族の都合により事業所の支援も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回系列病院の看護師の訪問があり本人の状態を共有している 体調不良時などは、それに限らず密に連絡をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が系列病院である為、協働はできている 入院時、時々面会に行ったり、家族とも連絡をまめにとり、情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化時の対応として、本人や家族の意向を取り入れた同意書を交わし、それを元に病院との連携を図っている	看取りの同意書は取っているが、事例は無く、最終的には状態により医師の判断で入院している。病院が母体である事業所のため、事業所での看取りよりも入院を望む本人や家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアルを作成し、応急対応の講習も積極的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い possible の限り、地域、消防団の方に参加して頂いている 年2回の防災訓練他、夜間想定訓練も行っている	24年9月地震想定防災訓練を消防分団メンバーの参加の下実施、25年5月運営推進会議の場で夜間想定消防署立合いの下実施している。自主訓練を1回している。連絡網があり地域に協力依頼をしている。スプリンクラー設置済み。水・缶詰等の備蓄が3日分ある。	自主訓練を重ねて不測の事態に備えてほしい。記録もお願いしたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その他の性格や意向に合った声掛け、支援を行いながらも、尊敬や尊厳の部分をもっと大切にしてい	各利用者の生きてきた環境を受け入れ過去を大事にした支援を心掛けている。今日着たい洋服を選んでもらい、きれいにいてほしいという思いや利用者同士の相性に気を配り、快適に過ごしてもらいたいという思いが職員にはある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の食事やレクリエーションの希望などを日常会話に取り入れながら、自己決定の支援を行っている ご自分から思いを伝えられない方には、その思いを引き出すように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に制限は設けず、本人のペースで支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方には、好きに着替えやおしゃれをしてもらい、支援が必要な方には、家族へ馴染みの服を持ってきてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態を見極めながら、皮むきなどの下ごしらえや味見、また、食後の食器拭きやテーブル拭きをしてもらっている 1日の献立表を記入し食前より楽しんで頂いている	食材を買い職員が作り一緒に食べている。食事の喜びを感じてもらえるように支援している。メニューは利用者が記入し食事の前に読み上げている。10時にはお茶が、3時にはお茶とお菓子が提供される。家族と外食に出かける人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ、一食一食調整しながら食事を作っている 特に、水分補給には注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を行い、食後は必要に応じ、介助にて口腔ケアをしている 本人や家族の意向により訪問歯科の診療が受けられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を大切に訴えのあった都度トイレ誘導行う。訴えのない時は、表情や仕草もしくは、時間帯で誘導している。失禁のあった際は陰洗、清拭、シャワーで対応する	大まかなチェック表がある。その人なりのソフソフ感を察知してトイレでの排泄支援をしている。夜間は自立の人の他、おむつやパットを利用している。失禁時には清潔保持の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食べ物や牛乳などの食事 軽い運動や腹部マッサージなどを行い極力、薬には頼らず対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきの入浴だが、希望があれば、それに限らず入浴してもらっている 時間帯も決めてはいるが、希望があれば、それには限らない	「汗かいちゃったよ」という声には「入りますか」と聞いているが、日常的には入浴表で入る日が決められている。順番は無く午前中の支援をしている。入浴できるというアナウンスをしているが全員には声を掛けていない。入浴者ごとにお湯を取り換えている。	全員に今日も入浴できるというアナウンスを行い、希望者には支援をお願いしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の妨げになってしまう方は、午睡の時間調整をさせてもらっているが、午睡の時間帯は設けずいつでも休んでもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示や処方薬の説明書などで薬について把握し、服薬後の症状の変化の有無を医師と共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きなどの手伝いや手作業などを無理のない範囲で受け持ってもらい、役割としてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や花木の手入れなどは、希望にそって行っている 月に1回程度は車で遠出をしている	日常的には散歩に出かけたり、草花の手入れをするために外に出る機会がある。月に1度程度ドライブに出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の満足や安心感に留意し、家族と相談の上、少額の現金を本人に管理してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族から申し出の無い限り、電話・手紙などの制限は行っていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂には、四季に応じた草花や製作物を飾り、季節感をとり入れている エアコンによる温度調整は行いが外の風を取り入れる時間を作っている	嫌な臭いが無く、利用者と一緒に掃き掃除がされりハビリ体操やお盆ふきができるテーブルが並んでいる。利用者同士の会話が聞こえ、一人になれるソファや日頃の作品が飾られ、季節の生花が活けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中でも死角になる場所にソファを用意し一人でくつろげるスペースを用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器は以前から使用していた物を積極的に持ち込んでもらい、新しく買い替える物も本人の趣味に合う物を家族と相談して用意してもらっている	居室では、おむつ等が箱や衣装箱に見えないよう整理されており、プライバシーが保たれている。暖簾や整理ダンス、テーブルや椅子、時計やぬいぐるみ等思い思いの物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体的状態に合わせて、広めに通路を確保したり、居室との導線が解りやすい席を用意している ベッドの高さ調節などを行っている		